

## ◎病害虫は早期の発見・適期の防除

## ◎病害虫の発生状況は【県防除所】電話〇九九-二九六一六四三〇 テレフォンサービスへ ホームページアドレス <http://www.jpnpn.jp/kagoshima>

## ◎農薬の使用基準を守り飛散防止に努めましょう。

時期	6			7			8			9			10		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
稲の一生	生育ステージ 田植期 → 有効分げつ期 → 穂肥 → 幼穂形成期 → 出穂期 → 登熟期間 → 米粒完成 → 成熟期 田植えの基準適期: 山間地(あきほなみ・はなさつみ 6月中旬, ヒノヒカリ 6月中旬), 平坦地(あきほなみ・はなさつみ 6月中旬, ヒノヒカリ 6月下旬)														
	水管理 浅水 → 間断かん水 → 中干し(土用干し) → 深水 → 間断かん水 → 落水(刈り取り1週間前が目安)														
病害虫名	いもち病類, コブノメイガ, ウンカ類, 稲紋こじ病, いもち病, ウンカ類, 穂枯病, 稲紋こじ病, いもち病, ウンカ類, カメムシ類, トビイロウンカ, カメムシ類														
	農薬名 ビルダーフェルテラチエス粒, ダブルカット粉3DL, アプロードモンカットスタークルF, コラトップ粒5, モンガリット粒, ダブルカットバリダトレポン粉, ノンプラストレバリダ粉DL, スタークル粉DL														
10a当りの散布量	一箱当り50g			3~4 kg			3~4 kg			3~4 kg			3 kg		
病害虫名	いもち病類, コブノメイガ, ウンカ類, 稲紋こじ病, いもち病, ウンカ類, 穂枯病, 稲紋こじ病, いもち病, ウンカ類, カメムシ類, トビイロウンカ, カメムシ類														
	農薬名 ビルダーフェルテラチエス粒, アプロードモンカットスタークルF, スタークル粒, モンガリット粒, ダブルカットバリダトレポン粉, ノンプラストレバリダ粉DL, スタークル粉DL														
10a当りの散布量	一箱当り50g			3 kg			3~4 kg			3~4 kg			3 kg		

### 農業安全基準

※回数については、本剤での使用回数です。

病害虫名	農薬名	使用時期	回数
いもち病	ブラシノ粉DL ブラシノフロアブル	収穫7日前まで	2回以内
	コラトップ粒5	いもち病に対しては初発10日前~初発時 穂いもちに対しては出穂30日前~5日前まで	
いもち病, 紋枯病	ダブルカット粉3DL	穂揃りまで	2回以内
	ダブルカットバリダフロアブル	収穫14日前まで	5回以内
紋枯病	アプロードモンカットスタークルF粉DL	収穫14日前まで	3回以内
ウンカ類幼虫	アプロードモンカットスタークルF	収穫14日前まで	3回以内
穂こじ病	ドイッポルドーA	出穂10日前まで	-
穂こじ病, 紋枯病	モンガリット粒	収穫45日前まで	2回以内
スクミリンゴガイ	スクミン	移植後(但し, 収穫80日前まで)	2回以内
ウンカ類 カメムシ類	スタークル粉DL スタークル液10	収穫7日前まで	3回以内
	アプロードスタークルゾル スタークル粒	収穫7日前まで	
いもち病, ウンカ類, カメムシ類	ビームアプロードスタークル粉5DL	収穫14日前まで	2回以内
ウンカ類, カメムシ類, コブノメイガ	トレボンEW	収穫7日前まで	2回以内
いもち病, 紋枯病, ウンカ類	Mr.ジョーカー粉DL	移植後	2回以内
いもち病, 紋枯病, ウンカ類 カメムシ類	ダブルカットバリダトレポン粉3DL ノンプラストレバリダ粉DL	穂揃りまで 収穫14日前まで	2回以内

※いもち病耐性菌が発生しやすいことから、アミスター、イモチエース、嵐剤を含む農薬を使用する場合は、箱施薬剤及び本田散布剤のいずれか1回にしましょう。

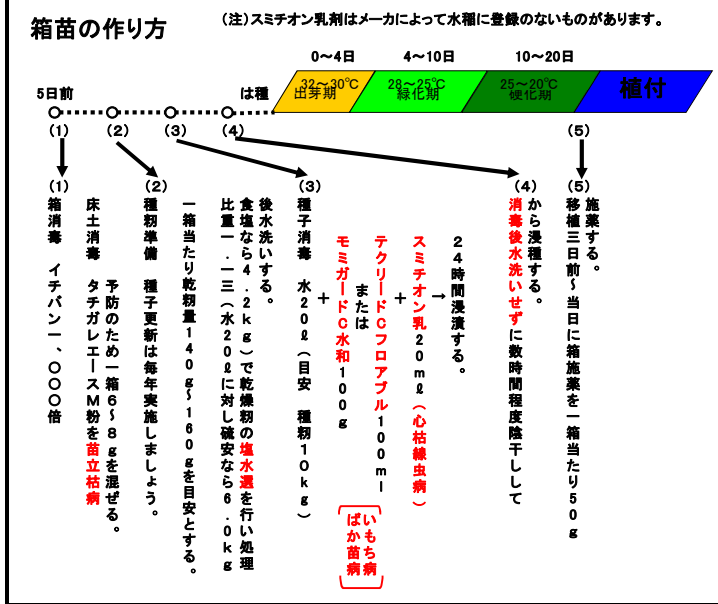
※トビイロウンカについては、発生予察情報に基づいた第1世代幼虫の防除が重要です。(7月中旬~下旬)

### 箱施薬の各病害虫に対する効果

剤名	いもち病	紋枯病	セジロウンカ	トビイロウンカ	コブノメイガ
ビルダーフェルテラチエス粒	○	-	○	◎	◎
フェルテラチエス粒	-	-	○	◎	◎
フルターボ箱粒剤	◎	◎	○	○	◎

◎効果大 ○効果あり ×効果不足 -登録なし

※本田で穂こじ病対策としてモンガリット粒剤を散布する場合、同時に紋枯病対策もできるため、箱施薬での紋枯病防除の必要性は低くなります。



### 除草剤の使い方 (使用の際は必ずラベルを読んで下さい。)

散布時期	除草剤名	10a当り散布量	雑草名	使用上の注意
初・中期(いずれか1剤)	移植後3日~ノビエ2葉期 (但し移植後30日まで)	ミスターホームランLジャンボ	10a/7kg	畦畔からバックを投げ込むだけの省力型。(風の強い日には散布しない) 水を5~6cmためて散布し、4日程度水をためる。バックは水溶性なので、雨などでぬらさないようにする。
	移植時~ノビエ2.5葉期 (但し移植後30日まで)	バッチリ1キログ	1kg	水田一年生雑草(ヒエ等)
	移植時~ノビエ2.5葉期 (但し移植後30日まで)	イネキング1キログ	1kg	ウリカワ
	移植後5日~ノビエ3葉期 (但し移植後30日まで)	ザークD粒17(3キログ)	3kg	マツバイ
	移植後5日~ノビエ3葉期 (但し移植後30日まで)	リードゾン粒(3キログ)	3kg	ホタルイ
	移植後5日~ノビエ3葉期 (但し移植後30日まで)	ビクトリーZジャンボ	10a/7kg	ミズガヤツリ等
中・後期(雑草の発生状況に応じて)	移植後15日~ノビエ3.5葉期 (但し収穫60日前まで)	ハイカット1キログ	1kg	ヒエ クログワイ 等
	移植後15日~55日 (但し収穫50日前まで)	バサグラン液	500~700ml	イネ科を除く一年生雑草 ウリカワ, ミズガヤツリ 等
	移植後20日~ノビエ6葉期 (但し収穫30日前まで)	クリンチャーEW	100ml	ヒエ キシウウスズメノヒエ
	移植後15日~ノビエ5葉期 (但し収穫50日前まで)	クリンチャーバスメ液	1000ml	ヒエ ウリカワ ミズガヤツリ 等
	移植後20日(イネ5葉期以降)~ノビエ5葉期 (但し収穫30日前まで)	ワイドアタックSC	100ml	ヒエ ウリカワ ミズガヤツリ 等
	移植後20日(イネ5葉期以降)~ノビエ5葉期 (但し収穫30日前まで)	ワイドアタックSC	100ml	ヒエ ウリカワ ミズガヤツリ 等

※イネキング1キログは飼料用米品種の一部(ミズホチカラ, モモロマン, ルリアオバ, 夢十色, タカナリなどの長粒種系)に使用した場合、白化、枯死などの影響があるので使用できません。

### 標準的施肥例と品種別栽培の留意事項

資材名	10a当り施肥量	特徴
ケイデツ	100kg	鉄分の欠乏による軟腐の防止、けい酸の補給による倒伏防止、増収・品質向上に役立ちます。
ケイカル	100kg	茎や葉が丈夫になり病害虫、倒伏、冷害などに強くなります。葉の受光体積が良くなり、登熟率が向上します。
粒状鉄入エンリッチ40	100kg	ヨロリンとケイカル・鉄を4:6で配合しており、根腐れ(軟腐)防止、倒伏軽減、施肥の省力化がはかれます。
鉄入り苦土重焼燐	20~40kg	鉄分を含んだりん酸肥料です。根の生育を促進し、軟腐防止や鉄欠乏の予防に効果があります。
鉄入り土の恵み	40~60kg	ケイ酸・鉄分を含んでいますので、健全な根を作り、軟腐・根腐れを防止します。
シリカサポート1号	20~40kg	高濃度のケイ酸により、倒伏軽減や受光体積、登熟効果を高める効果が期待できます。

肥料名	10a当り施肥量	ヒノヒカリ	あきほなみ・はなさつみ
ニューあいら水稲277 BBC240(低コスト肥料)	30kg	-	40kg
ヒカリエース2号	35kg	-	-
普通期晩生ロング (基肥・発芽肥料)	-	-	50kg
倒伏軽減 食味向上資材 米連り一番 又は マルチサポート1号	20kg	-	20kg
種肥	BBNKO-77	5~10kg	10~15kg

(注1)基肥は圃場と地域性に合った肥料を使用しましょう。  
(注2)鉄分を含む資材については、たばこ作付予定圃場での使用は控えましょう。

※ 標準的施肥例ですので、生育状況に応じた栽培管理を徹底しましょう。

- ◎ 品質向上対策について  
・登熟期に気温が高いと、「高温障害」により「心白米」等が発生するおそれがあります。このため、田植を適期に行い、登熟期の高温を避けるようにしましょう。地域及び水利等の圃場条件に適した品種を選定しましょう。
  - ◎ 抵抗性雑草について  
長年、同じ除草剤を使用し効かなくなった雑草が発生している圃場には、抵抗性雑草対策剤として、ミスターホームランLジャンボ・バッチリ1キログ・イネキング1キログ・リードゾン粒剤を使用しましょう。
  - ◎ ウキクサ・薬類の対策について  
モグソクを発生始~発生盛期(収穫45日前まで)10a当り2~3kg散布しましょう。灌水散布し、落水・かけ流しをしながらしましょう。薬類には、部分的に散布しても効果があります。
  - ◎ スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)の発生ほ場では  
・各圃場に耕り込みを行い殺菌しましょう。作業は寒い時期が効果的です。卵の塊をできるだけ除去しましょう。  
・田植後は灌水にしましょう。
  - ◎ 稲こじ病の発生ほ場では  
・種子伝染のため、発生した水田からは採種しないようにしましょう。常発地帯では窒素肥料の多施用を避けましょう。  
・出穂20日前までに薬剤防除をしましょう。
- ※ 精油かすは、農薬として登録がとれておらず、魚毒性が非常に高いため、水田でのスクミリンゴガイ防除には使用できません。  
※ 農薬の登録状況は、平成28年12月10日現在です。  
※ 農薬の使用に当たっては、容器包装に表示してある使用方法を確認して使用しましょう。
- 農薬をご購入の際は印鑑をご持参下さい。**